時事新報定價

一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓〇一箇年前金六圓

〇時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ送送スルモノニ限リ右定價ノ外ニ一箇月十五錢ノ送料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金

一行五號活字廿四字詰	一日限	一日以上	七日以上
一行ニ付	十二錢	十一錢	十錢五厘

月曜日幷に大祭祝日の翌日等他新聞紙の休刊日ゝ限り時事新報配達の求めに應ず此場合には新報代價一箇月前金八錢にして地方に郵送する分は此外に貼用する郵便印紙の代價を申受く可し

時事新報

被害地の窮民

日本の内地は千百年來耕作の上にも耕作を加へ其豐味は殆んど既に涸竭して今の收穫は唯糞土肥料と交換するに過ぎず農業に於ては誠に鮮少なき土地となりたり左れば彼の游牧の民が水草を逐ふの趣向に從ひ沃土を域外に求むるみと必要にして我輩が兼て開墾錄下年期の延長を希望し又海外移住を主張したるも皆此主意に由らざるはなし蓋し人口ます〳〵多きを加へて瘠土また利を見ざるの地に離離たるは公私の爲めに窮する所ありて益する所あければなり然るに墳墓を顧み親族を慕ふは人間の至情にして假令へ鄙國には生を托するの餘地を觀ざず活計の困難日々に目前に迫ると雖も扨他域に踏出さんとするに當りては先づ異境流寓の悲酸のみを想像して身邊世帶の艱難をば忘るゝとなしと打忘れ故山に戀々する其間には飢餓に顛し卑賤に沈みて果敢なき生涯を送るもの凡て從來の實況なり誠ゝ姑息の情實ゝして惜むゝ堪へたりと雖も人情に逆ふは流を留むるよりも難し現に我國の士族の如きは理非善惡の分別も勇往敢爲の精神も他の種族に比して常には大に優る所あるに拘はらず利に赴き身を立るの點ゝ至ては其元氣を蚊無するの勇なくして聊か祿券を維持するものは悠然として鮮肉を撫し恩賜既ゝ竭きたるものは妻子と共ゝ路頭に迷ひ朋友知人に生涯を訴して猶も故鄉に昵びの有樣なれば況して農民の如きに至ては身に勞働の覺えありとは云へ移住を決するの奮發心は之を盛んで得べからず氣の毒ながら其成行に一任して等閑の極或は奮發の勵慣たるべきやと傍觀せしゝ今年の水害は端なく其運を啓かんとするの事實を來たせり

今年の水害に遭ふて南朝の遺臣和州十津川の住民は全部落を擧げて北海道に移住したり蓋し日本の壯會ゝ一美例を與へたるものにして遺憾の餘、事偶然に出でたりと云ふと雖も所謂移住の名譽は長く十津川人民に歸すべきものなり往昔戰國の時代には敗軍の餘、身を置くに所なくして餅遠荒凉の地に落ぶれ僅かに餘生を完ふする其間に民業を興隆して不毛を拓きたるもの少からざりしかども此度の如く永住の故山を見捨て全部落を擧げて移住したるは我輩の未だ聞かざる所ゝして殊更ゝ之を美擧と稱するは今の我國の窮民等が飢餓に飢して若は親戚故舊に離々して離群索居の悲しみを悲しび其中に一種特色の事例を示したるが故なり近來勸力の報道を聞くに被害地方の小作人は作料の減免乃至救助あらんことを申場へ地主に向て同盟罷工をなすものあれば甚だしきは不穩の擧動に及ぶものあり或は堆高き土砂に埋もれ巨大の木石に押潰されたる田畑を唯一概に舊に復せんと欲するより辛苦して勞力を顧みざるもの比々皆然りと云ふ被害の田地惜からざるに非ずと雖も何故ゝ斯る雖儀の勞働を以て移して北海道に施さゞるや何故に罷工の同盟を以て移して北海道に同盟せざるや今回の同盟ゝ親近相携ふるの便宜なり過日の水害ゝ之を捨つるの好機なり而して北海道は我輩が曾て論じたる如く興すべきの事業に乏しからず而して捨ふべきの利益甚だ多く公私の利益蓋し此上あるべからず況んや日本國の版圖内にあり海外萬里の異邦に異客たるに非ざるをや左れば北海道の移住ゝ適するは申す迄もあけれども唯その寒國雪深きの故を以て關西の人民は殊の外恐縮し又世間の論者中にも暖國の人民は九州の日向邊に赴かしむるゝ却て勸告の親切あるものなりなど云ふ者あり成程北海道は寒く九州は暖かなるに相違なしと雖も寒暖の苦樂は利害の厚薄に比較す可らず地味の一點に於て南北天淵の相違は固より論ずるのみならず假に其利益を離れて唯名譽の上より云ふも九州に赴くものは怡も實業家の新參者にして云はゞ他の軍門に降を乞ふの姿とおれども北海道に移住すれば開拓の魁先と尊ばれて永く史上に芳名を留むべし我輩が一歩を進めて所望を吐露すれば今の政治社會に馳騁する人々も雲烟過眼の虛聲を斷念して國利民福の實名譽を求め黨衆を率て北海に渡航するゝ得策なれと云はんと欲する者なり移住者の名譽は小政治家の比ゝあらず今の窮民たる者が何とて寒暖を問ふの暇あらんや況んや北地とて人口の次第に繁殖するに隨ひ氣候に變化を生ずるは天然の道理にして猶ほ現今とても左程に恐るべき程の風土に非ざるに於てをや

左れば被害地の窮民を始め世の生存競爭に打負けたるものは怡も往昔の敗將敗卒が邊陳ゝ身を隱すの否運と心得、思案を定めて聊かの艱難を忍び北海道に移住して第二の幸福を求むるゝそ上策ありと雖も爰に惘びべき は下等卑賤の窮民ゝ(現否の分別ある窮士族の如きは假ゝ上等の窮民とす)殊に水害に遭ふて實際その土地の動び可からざるを知ると雖も無智寒間の悲さには人生の區域を狹められて身は必ず其鄉國に死生すべき筈と定め移住などゝは更に存じ懸もなければ唯夢中に瘠土を耕すの外なく又少しく事理に通ずる者は多くは地主等の連中なれば小作人の逃出さんとを恐れて自己の利益を保護せんが爲め北海道云々の如きは口を箝めて曾て言はず、不言不聞、漫然茫然の間に艱難その日を送ると云ふ誠に果敢なき次第なれば此邊は當局先達の人々に於て注意を加へ時ゝ奬勵して移住思想を發揮せしめんと我輩の切に願ひ所なり聞く所によれば僧侶中の有志者は此等の窮民を勸誘して移住せしむるの方法を工風中なるよし經世の爲め至極結構なる事柄にして我輩は移住の事に付ては其發起者の誰れ彼れに論ずる都て贊成の意を表する者なれども唯新聞紙の勢力下等の細民に及ばざらんことを恐ひのみ

官報

〇内務省告示第五十六號

一 類造化機論　一冊
一 男女交合得失論　一冊
一 新斷蛸墨猪　一冊
一 人造色事指南　一冊
一 新法色事指南　一冊
一 人造色事指南　一冊
一 類造化機論　一冊
一 絵入枕の草紙　一冊
一 絵入枕の草紙　一冊
一 造化秘理男女交合新論　一冊
一 開枕草紙　一冊
一 きげんよし　一冊
一 男女寢物語　一冊
一 男女寢物語　一冊
一 男女快樂之要訣　一冊

東京淺草區黑舟町十五番地　鳴山　佐倉發行
東京日本橋區濱町三丁目三番地　山口　鶴吉發行
東京神田區元柳原町三十三番地　岩谷　與吉發行
東京本鄉區湯島三組町二十六番地　田村　鶴吉發行
東京神田區末廣町三十五番地　岡田常三郎發行
東京京橋區大鋸町一番地寄留　花井　卯助發行
東京京橋區銀座一丁目八番地　山崎　晃平發行
東京京橋區中和泉町四番地　木村　ゆき發行
東京下谷區車坂町六十二番地　酒井　喜美發行
東京淺草區奥久町三十六番地　岸　仲蔵發行

京都市寫小路通三條下ル朝倉町二十七番戸　中村　淺吉發行

右出版物ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルヲ以テ其發賣頒布ヲ禁止ス

明治廿二年十二月十日　内務大臣伯爵山縣有朋

〇内務省告示第五十七號

一 金銀不用代用　既物駒鏡　徳島縣徳島市佐古町九百八十七番屋敷　山下太三郎發行

右出版物ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルヲ以テ其發賣頒布ヲ禁止ス

明治廿二年十二月十日　内務大臣伯爵山縣有朋

〇鐵道運輸開業免許狀下附

九州鐵道會社鐵道線路の内博多久留米(千歳川北岸)間工事落成ゝ附き監査の上本月三日運輸開業免許狀を下附●關西鐵道會社鐵道線路の内草津三雲間工事落成に附き監査の上本月五日運輸開業免許狀を下附せり(鐵道局)

雜報

〇巴西國革命の詳報　南米巴西帝國にて革命起り帝政府を廢して共和政府を創建したりとの電報は過日の紙上に記載したりしが一昨日着の米國新聞に據て革命の詳報を記さんに巴西の首都リオデ、ヂヤネーロに於て革命起りたりとの電報紐育府ゝ到着せしは去月十五日の夕方ゝして市民中には甲の意外なるに驚く者多く米國駐在の巴西全權公使も當夜深更に及んで新聞通信者に面會し本國より未だ公報を受取らざる旨を告げ巴西にては共和黨の勢力優勝なるのみならず國民は少しも不自由を感ずるゝと無きを以て革命を起すの理由もなければ政府を顚覆する程の變事ありとも思はれず云々と述べたれども其後續々來着する電報は何れも曾前報を補めたりそも今回の革命は至極穩かにして一滴の血だも流すに至らざりしは全く軍人が革命黨に味方せしが爲にして革命黨はフォンセカ將軍を首領として假政府を組織し新内閣の役割は内閣議長にフォンセカ將軍、内務卿ヨツパ氏、外務卿にボイヤ、ユーラ氏、大藏卿ユバーロデ氏、司法卿にセールス氏、陸軍卿にロンスメント氏、海軍卿にヴアンダーホルツ氏、農務卿にリベロ氏なり偖て同月十七日倫敦タイムス新聞に達したる電報に曰く巴西國にては「ペドロ」皇帝の久く支配せし諸州を集めて合衆國を組織し「パヒヤ」州を除き其他の諸州は皆新共和政府を承認したり「ペドロ」皇帝は抵抗の念を斷て蔭蔭牙に向け出立の筈なれば新政府は國旗を定め國民は皆革命の起りしを忘れたるもの〳〵如き有樣にして至極平穩なり「ペドロ」帝は革命の起りし時「ポルツ」の離宮ゝ幽閉中なりしが革命黨は帝に向て政體を變ずるに至りしゝ四十五萬弗の承諾し通知をば唯一概に舊に復せんと欲するより辛苦して勞力を顧みざるもの比々皆然りと云ふ被害の田地惜からざるに非ずと雖も何故ゝ斯る雖儀の勞働を以て移して北海道に施さゞるや何故に罷工の同盟を以て移して北海道に同盟せざるや今回の同盟ゝ親近相携ふるの便宜なり過日の水害ゝ之を捨つるの好機なり而して北海道は我輩が曾て論じたる如く興すべきの事業に乏しからずして捨ふべきの利益甚だ多く公私の利益蓋し此上あるべからず況んや日本國の版圖内にあり海外萬里の異邦に異客たるに非ざるをや左れば北海道の移住ゝ適するは申す迄もあけれども唯その寒國雪深きの故を以て關西の人民は殊の外恐縮し又世間の論者中にも暖國の人民は九州の日向邊に赴かしむるゝ却て勸告の親切あるものなりなど云ふ者あり成程北海道は寒く九州は暖かなるに相違なしと雖も寒暖の苦樂は利害の厚薄に比較す可らず地味の一點に於て南北天淵の相違は固より論ずるのみならず假に其利益を離れて唯名譽の上より云ふも九州に赴くものは怡も實業家の新參者にして云はゞ他の軍門に降を乞ふの姿とおれども北海道に移住すれば開拓の魁先と尊ばれて永く史上に芳名を留むべし我輩が一歩を進めて所望を吐露すれば今の政治社會に馳騁する人々も雲烟過眼の虛聲を斷念して國利民福の實名譽を求め黨衆を率て北海に渡航するゝ得策なれと云はんと欲する者なり移住者の名譽は小政治家の比ゝあらず今の窮民たる者が何とて寒暖を問ふの暇あらんや況んや北地とて人口の次第に繁殖するに隨ひ氣候に變化を生ずるは天然の道理にして猶ほ現今とても左程に恐るべき程の風土に非ざるに於てをや

左れば被害地の窮民を始め世の生存競爭に打負けたるものは怡も往昔の敗將敗卒が邊陳ゝ身を隱すの否運と心得、思案を定めて聊かの艱難を忍び北海道に移住して第二の幸福を求むるゝそ上策ありと雖も爰に惘びべき は下等卑賤の窮民ゝ(現否の分別ある窮士族の如きは假ゝ上等の窮民とす)殊に水害に遭ふて實際その土地の動び可からざるを知ると雖も無智寒間の悲さには人生の區域を狹められて身は必ず其鄉國に死生すべき筈と定め移住などゝは更に存じ懸もなければ唯夢中に瘠土を耕すの外なく又少しく事理に通ずる者は多くは地主等の連中なれば小作人の逃出さんとを恐れて自己の利益を保護せんが爲め北海道云々の如きは口を箝めて曾て言はず、不言不聞、漫然茫然の間に艱難その日を送ると云ふ誠に果敢なき次第なれば此邊は當局先達の人々に於て注意を加へ時ゝ奬勵して移住思想を發揮せしめんと我輩の切に願ひ所なり聞く所によれば僧侶中の有志者は此等の窮民を勸誘して移住せしむるの方法を工風中なるよし經世の爲め至極結構なる事柄にして我輩は移住の事に付ては其發起者の誰れ彼れに論ずる都て贊成の意を表する者なれども唯新聞紙の勢力下等の細民に及ばざらんことを恐ひのみ

〇内務省告示第五十六號

一 類造化機論　一冊
一 男女交合得失論　一冊
一 新斷蛸墨猪　一冊
一 人造色事指南　一冊
一 新法色事指南　一冊